

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)PDハウス新潟新築工事 新潟県新潟市中央区紫竹山1丁目116番1の一部 他 近隣商業地域、準防火地域 病院, 2024年7月 竣工 1,740.80 m ² 545.29 m ² 2,030.57 m ² 地上4F S造 実施設計段階評価 2023年10月20日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{42.3}{37.0} = 1.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全 に使い続けるために	平均スコア 3.0		バリアフリー計画 維持管理 設備の更新性	Q2.1.1.3 Q2.1.3 Q2.3.3	3.0 3.0 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産 を守るために	平均スコア 2.7		耐震・免震・制震・制振 信頼性	Q2.2.1 Q2.2.4	3.0 2.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのた めに	平均スコア 2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 4.0		建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用	LR1.1 LR1.2	5.0 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づく りのために	平均スコア 3.7		節水 躯体材料以外でのリサイクル材の使用 部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.1.1 LR2.2.4 LR2.2.6	4.0 3.0 4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代 に引き継ぐために	平均スコア 2.0		生物環境の保全と創出 敷地内温熱環境の向上	Q3.1 Q3.3.2	1.0 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活か したまちづくりのために	平均スコア 2.5		まちなみ・景観への配慮 地域性への配慮、快適性の向上	Q3.2 Q3.3.1	3.0 2.0

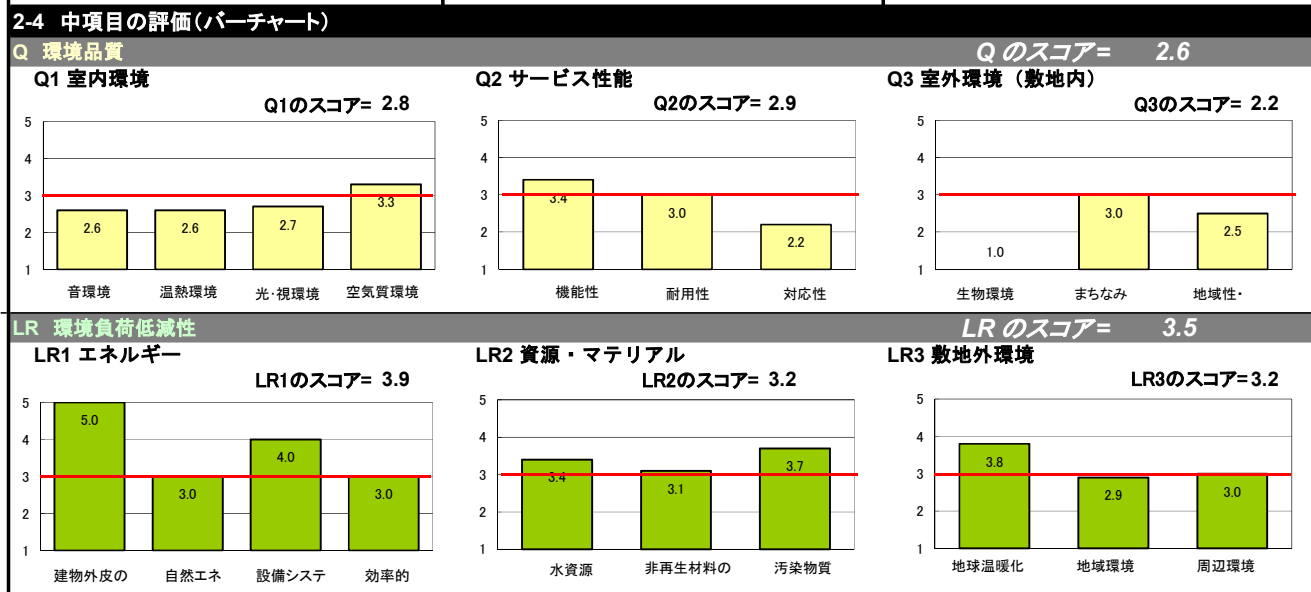
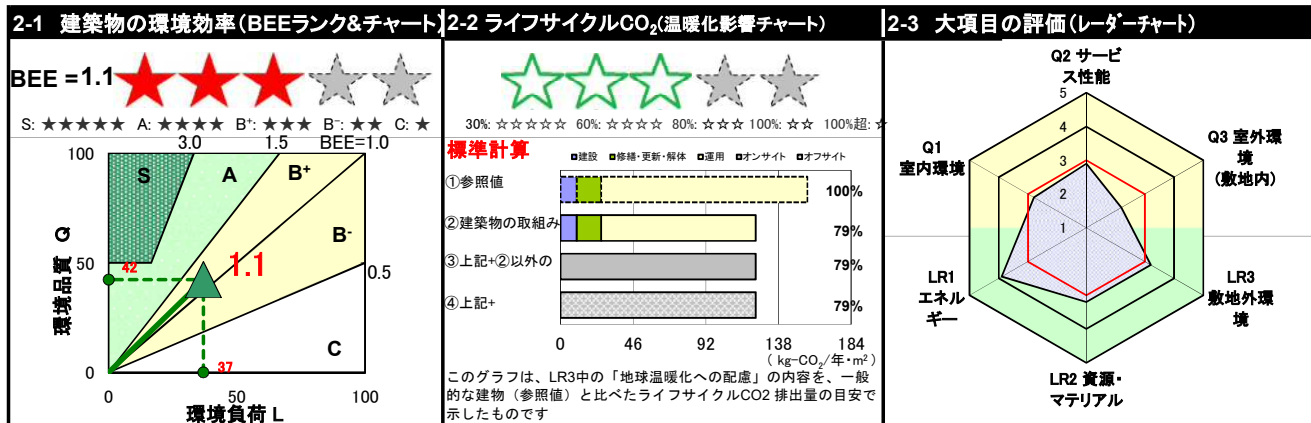
4. 新潟市の重点項目の配慮事項

新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。

優れた外皮性能を有し、自動水栓や節水型便器を採用する等、環境負荷を減らすよう配慮している。

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版(使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)PDハウス新潟新築工事	階数	地上4F
建設地	新潟県新潟市中央区紫竹山1丁目116番1の一部 他	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	54 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年7月 竣工	評価の実施日	2023年10月20日
敷地面積	1,741 m ²	作成者	中西 宏臣
建築面積	545 m ²	確認日	2023年10月20日
延床面積	2,031 m ²	確認者	中西 宏臣



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
優れた外皮性能を有し、エネルギーの効率的な利用を図った設計としている。 全居室に十分な広さと確保するとともに、高い昼光利用率を備え、利用者の快適性を追求した設計としている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
適切な開口面積を有し、昼光利用、自然換気能力に長ける。	全居室において10㎡以上の広さを有する設計としている。	特になし。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPlm=0.75、BEIm=0.76と、建物外皮の熱負荷を抑制すると同時に、エネルギー消費性能についても配慮した設計としている。 特に、エネルギー消費量の多い給湯設備について、配管の保温や自動水栓を設置することにより、負荷軽減を	節水機器の採用、部材の再利用、汚染物質含有材料の使用回避により、可能な範囲で環境への配慮に努めている。	エネルギー消費量の削減に努め、LCCO ₂ の削減に寄与している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される